

分析報告書

調査No. 2024-03174

受付日 2024年 6月 14日

作成日 2024年 6月 25日

計量証明事業所 熊本県知事登録第157号



株式会社 生科研分析センター

熊本県阿蘇郡西原村鳥子312-4

環境計量士

相良留美子 (漢35)

診断設計担当 川上

農家名 住所	築地原未来 0944622456 福岡県みやま市瀬高町本吉118-8	圃場名・地番 圃場面積 土性目	C — 09 — 培土 6 施設	農協・団体名 代理店 作物	10036-00 JAみなみ筑後 104001 福岡生科研株式会社 211724 イチゴ あまおう 238 ベンチ栽培 (苺)
-----------	--	-----------------------	---------------------------	---------------------	--

栄養状態に関する判定表															
分析項目	pH (H ₂ O)	EC (1:10) mS/cm	アンモニア態窒素 mg/100g	硝酸態窒素 mg/100g	有効態リン酸 mg/100g	交換性加里 mg/100g	交換性石灰 mg/100g	交換性苦土 mg/100g	交換性マンガン mg/kg	可給態鉄 mg/kg	可給態銅 mg/kg	可給態亜鉛 mg/kg	ホウ素 mg/kg	石灰/苦土	苦土/加里
分析法	ガラス電極法	※1	0.7174-449 吸光光度法	729424629-752 吸光光度法	モリブデン青法	カリボール法	OCPC法	キシリジールブルー法	ICP 発光分析法	ICP 発光分析法	ICP 発光分析法	ICP 発光分析法	ICP 発光分析法	※1	※1
分析値	7.1	0.34	0.25	9.0	384	91	1280	84						10.9	2.2
高値	↑				●		●								
	↑	●				●								●	●
低値	↓		●	●				●						●	●
	↓	●	●						●					●	●

地力由来に関する判定表			
分析項目	塩基置換容量 (me/100g)	塩飽和度 (%)	リン酸吸収係数
分析法	※1	※1	吸光光度法
分析値			290
高値	↑		
	↑		
目安域	↑		●
	↓		●
低値	↓		
	↓		

診断メッセージ

・依頼品は培土や人工的に合成されたものであり、土性としての分類は出来ません。
 ◇ pHは7を超えています、ガッテンペーハーによるpH矯正を行ってください。
 硝酸態窒素はやや高い状態です、元肥の窒素施用は減量してください。
 硝酸は過剰集積、加里は高い状態です、元肥の硝酸は中止、加里は減量してください。
 ○ 石灰/苦土のバランスがやや崩れています。
 ◇ 集積した成分は施肥を減じ、蓄積分から積極的に利用するよう心掛けます。
 ◇ 過剰集積している多量要素がみられます。
 肥料効効か堆肥連用による蓄積と考えられます。

<生育コントロール>
 作物の生育には健全な土づくりが出来ていても、気象条件の変化によって生育などに大きく影響を受ける場合があります。生育調整にはメリットで生育コントロールを実施し美味しく健全で安心できる作物の収穫を確保してください。

※上記グラフの施肥前目標域は土耕の場合であり、培土の場合ではありません。
 右記土づくり資材は培土100tあたりの混合量として読み替えてください。
 当品は比重が軽いため、pHは当品：抽出液=1：10で測定しています。

本年度参考施肥設計 (成分kg/10a)			
施肥区分	窒素	リン酸	加里
元肥	6.4	0.0	0.8
合計	6.4	0.0	0.8

上記参考施肥設計の基となる施肥量			
施肥区分	窒素	リン酸	加里
元肥	12.8	9.6	8.0
合計	12.8	9.6	8.0

肥料及び土づくり資材名	包種・袋数	10a当り
ガッテンペーハー	[10kg× 5袋]	50 kg
完熟堆肥1tまたはユーキフルベレット	[20kg× 5袋]	100 kg

お客様相談窓口 0120-376-831
 平日 午前9時～午後5時 (土日祝日・休業日を除く)
 土壌診断・土づくり、商品のお問い合わせにご利用ください。
 ホームページからお問い合わせいただけます。
 URL <https://www.n-seikaken.co.jp>

※1：土壌中の濃度証明にあたり項目です。
 ※2：塩基置換容量は、交換性塩基の分析値など算出して算出しています。

*本誌の一部または全部を無断で複写、複製、転載することを禁じます。

アグリス高設栽培システム 施肥設計

受付日:	2024/7/31	年度:	R6	(mg:100g乾土 ME)
氏名:	築地原 未来	様	圃場名:	C 西

	PH	EC	アンモニア態N	硝酸態N	有効態リン酸	CaO	MgO	K2O	CaO/MgO	MgO/K2O
分析値	7.1	0.34	0.25	9	384	1280	84	91		
予想実数値		0.11	0.1	3.6	153.6	512.0	33.6	36.4		
me						18.3	1.7	0.8	10.9	2.2
基準値	5.8~6.2	0.3以下	-	-	20~70	350	40	50	5~8	2~3

PHは高くなっており、ECは問題ありません。

リン酸は残肥していますので単肥での施用は必要ありません。

塩基養分については石灰が過剰、となっています。塩基養分の過剰を改善するため、土壌改良剤での矯正を行います。

本年度の施肥は以下の通りです。

【生科研分析データより】

【 元肥 】

銘柄	施肥量		成分量(kg/10a)			備考	定植本数 0 株	
			N	P	K		必要量	
						kg	袋	
無双 元肥	10	g/株	8.4	6.3	7.7	※定植前 土壌混和	0	0
無双 地力	10	g/株	0.4	0.4	0.2	※定植前 土壌混和	0	0
土壌改良剤	3	L/10a	400倍希釈			※元肥施用前に動噴等で培地表面に散布。		
硫マグ	3	g/株	W-Mg25			※元肥施用前に土壌混和	0	0
合計			8.8	6.7	7.9	7,000 株/10a換算		

【 追肥 】

銘柄	施肥量		成分量(kg/10a)			備考	kg	袋
無双 追肥	12	g/株	10.1	5.0	10.1	腋花房分化後	0	0
総合計(元肥+追肥)			18.8	11.8	18.0			